

## アメリカ体感記

—2007年10月～2009年5月—

茂成奈央

スカパーJSAT(株)

衛星事業本部 グローバル&モバイル事業部



### 1. はじめに

2001年に衛星通信事業者であるJSAT株式会社(当時)に入社して早丸9年が過ぎようとしている。入社当時は衛星通信について何一つ知らなかった私だが、沢山の方々のお陰で今日まで何とかやってこれた。会社も大きく成長し、JSAT(株)は2007年4月に(株)スカイパーフェクト・コミュニケーションズと経営統合し、持株会社を設立。その後、持株会社は2008年3月末に宇宙通信(株)を子会社化。その年の10月には3社が合併し、現在のスカパーJSAT(株)となった。

会社が大きな変革を迎えていた丁度そのころ、2007～2009年は私個人にとっても大きな変動の年であった。人生で初めて、アメリカでの仕事と生活を体験した一年半…期間としては決して長い期間ではなく、またそこでの経験も甚だ半人前のものであるため、大変恐縮ではあるが、今日はその時期に私が見て、感じたことを書かせて頂きたいと思う。

### 2. 海外トレーニー制度

当社には、若手社員の人材育成を目的とした海外トレーニー制度が存在する。この制度にて派遣される研修生は、アメリカのワシントンDCに拠点を置く当社の米国子会社であるJSAT International Inc.(以下、JII)もしくは、香港支店のどちらかで、業務を通じて一年半の研修を受けることができる。私は、かねてから一度は海外で仕事をしてみたいという夢をもっていた。そのような中、2007年5月に社内で海外トレーニーの公募がなされた。私は、これはいい機会!とばかりに年齢制限上限ぎりぎりまで応募した結果、2007年10月からJIIに派遣されることとなった。

### 3. IS-15プロジェクト

私がアメリカでのトレーニーに応募したのには、もう一つの理由があった。それは当時私が関わっていたある一つのプロジェクトである。当時私は、インテルサット社と区分所有する衛星の調達プロジェクトに関わっていた。この衛星こそ、2009年12月1日にカザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から打上げられたIntelsat 15(当社所有ペイロード名称:JCSAT-85)である。このプロジェクトは私にとって初めての海外パートナーとの区分所有衛星プロジェクトで、何から何まで勉強の連続であった。事業計画、調達契約書、打上保険、技術仕様、周波数調整…今思い出してもこのプロジェクトで初めて知ったことは数え切れない。それだけに毎日必死だった。何度も契約書を読み直し、Intelsat社と交渉を重ね、契約調印に至ったのは2007年3月末であった。契約調印を終えた後、正直私はちょっとした「燃え尽き症候群」のような状態になってしまった。トレーニー制度は、そんな私に新しい夢と目標を与えてくれるものでもあったのだ。



▲ Intelsat 15 (JCSAT-85)

#### 4. アメリカ入国

2007年10月31日、アメリカに入国した日のことは今でもよく覚えている。それまでにも旅行や出張でアメリカに入国したことは何度もあったが、生活するための入国は初めてで、ビザの書類に不備はないか、いきなり強制送還されやしないかと、とても緊張した。その日はハロウィーン当日で、タクシーで通り抜けた住宅街にはテレビでしか見たことがないような巨大なカボチャのオブジェ、蜘蛛の巣や骸骨の飾りが施されていた。これからの生活に心が躍ったが、それも束の間、情けないことに夕方には街を楽しそうに練り歩く大人や子供の姿を見て、自分にはこの地での行事と一緒に分かち合える家族も友達もない外国人であることを妙に実感してしまい、一人で中華のテイクアウトを食べる自分に早速寂しくなってしまった。

#### 5. JSAT International Inc.

私が研修生としてお世話になることになったJIIは、2001年8月に当時のJSAT(株)の米国現地法人として設立された。JIIとインテルサット社は、米国上空のHorizons-1衛星とHorizons-2衛星を共同保有しており、顧客からの収入を両社でレベニューシェアしている。

JIIやHorizons-1衛星およびHorizons-2衛星の詳細については、JIIの井上CEOがSJR 10&11月号(No.64)の「世界のCEOに聞く」コーナーで紹介しているのので是非そちらを参照して頂きたい。  
(<http://sitcom.nict.go.jp/64/interviewwithceo.pdf>)

#### 6. オフィス移転

JIIは2007年10月当時、メリーランド州のベセスダという町に仮オフィスを構えていた。ベセスダはワシントンDCから車で20分程の閑静な街で、高級住宅街としても知られ、日本人の駐在員も数多く住んでいる町である。なぜ当時JIIが仮オフィスだったかという、JIIは2001年の設立からこの年の2007年6月まで西海岸のロサンゼルスにあったのだが、2007年7月に東海岸にオフィスを移転し、2008年初頭でのワシントンDC市内の正式オフィスへの移転に向けての準備中だったからである。このワシントンDC市内への移転こそが、私の研修生としての最初の業務となった。

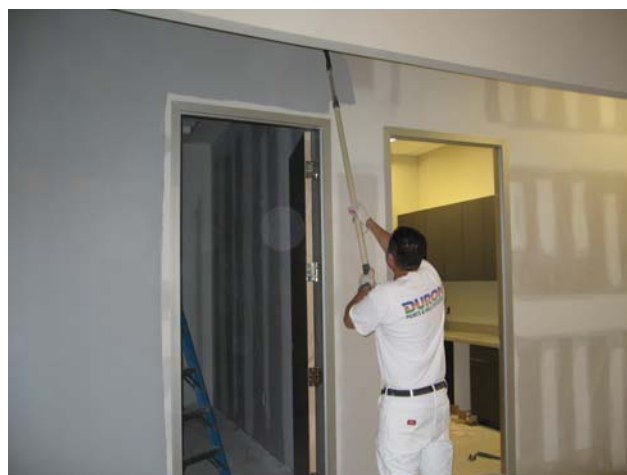
私がそれまでの社会人生活で携わっていたのは衛星通信事業の事業開発や営業で、オフィス移転については何をすればいいのか全くわからなかった。しかもここはアメリカである。アメリカ人の不動産エージェントの助言を頼りに、JIIのメンバーと一緒に取り組んだ。

内装工事、家具決め、引っ越し、インフラ手配、何もかもが初めてだった。工事がスケジュール通りに終わらない、発注した家具が届かない、相手が約束の時間に現れない…日本では考えられない事態が続発し、最初はその度にびっくりしていたが、そんなアメリカ式にもだんだん慣れてきた。英語が不安だからと言って電話を怖がってはいられない。分からないことを一生懸命確認したり、必死でこちらの意図を伝えたりしているうちに、少しずつ英語を話すことの緊張感が薄れてきたように思う。

最後までハラハラしたが、2008年2月、JIIは無事、ベセスダの仮オフィスからワシントンDC市内のオフィスへ引っ越しすることができた。



▲ JIIオフィス工事中



▲ JIIオフィス工事中



▲ 完成後のJIIオフィス



▲ 完成後のJIIオフィス

## 7. スペースシャトル打ち上げ

アメリカ滞在期間中に是非一度この目で見ておきたいと思っていたのが、フロリダのNASAケネディ宇宙センターから打ち上げられるスペースシャトルの打ち上げであった。特に夜の打ち上げ (night launch) の美しさは忘れられないという。実際にNASAケネディ宇宙センターを見学した時にスペースシャトルの射場を遠くから眺め、その思いはますます強くなった。2008年3月、そのチャ

ンスは突然やってきた。なんと国際宇宙ステーションの日本の宇宙実験棟「きぼう」を搭載し、土井宇宙飛行士が搭乗するスペースシャトル「エンデバー」の打ち上げが3月11日深夜にあるというではないか。これは是が非でも行かねばならない。思いつく限りのコネを駆使して見学ツアーのチケットを手に入れ、1泊3日の弾丸ツアーを決行した。



▲ 打ち上げ見学サイトー打ち上げ8分35秒前

寒いワシントンDCから暖かいフロリダまではわずか2時間のフライトである。打ち上げツアーの待ち合わせ場所に到着したのは午後10時。誰もが期待に胸を膨らませ、興奮しているように見えた。打ち上げ見学場所に到着してみると、JAXAの関係者の方々も沢山来ているようだった。衛星の打ち上げもそうであるが、打ち上げというのは直前で延期されることも多い。ここまで来たら、あとはただ祈るしかなかった。打ち上げ時間が近づいてくると、ミッションコントロールセンターとスペースシャトル船内の宇宙飛行士の無線のやりとりがそのまま放送されるようになった。このあたりはオープンさにはアメリカのお国柄を感じた。打ち上げ条件は全て整い、カウントダウンに入った。

「…3, 2, 1, lift off !」米国時間2008年3月11日(火)午前2時28分、一瞬の間があった後、とつぜん夜の闇がオレンジ色の閃光に照らされた。一瞬昼間のようになり、さっきまで全く見えなかった周りの人たちの表情が見えた。次の瞬間、ゴゴゴゴという地響きのような音と、バリバリバリという空気を裂くような音とともにスペースシャトルが飛び立っていった。この瞬間を目に焼き付けたいという思いと、写真もビデオも撮りたいという思いが交差して大忙しだった。スペースシャトルはすぐ低い雲に突っ込んで見えなくなったが、音だけは続いていた。音が小さくなるにつれて、何事もなかったかのようにまた夜の闇になった。一瞬の出来事で、夢のような光景だった。「あの莫大なエネルギーで、人類が宇宙に飛び立つ。」体で感じ、心から感動した。やはり一生忘れられない思い出となった。

## 8. 大統領選挙

2008年から2009年のアメリカを語る上で、米国大統領選挙のことは外せない。2008年の幕開けは、大統領選挙の幕開けでもあった。予備選挙(primary election)で、クリントン氏とオバマ氏が激しく戦っている時は、レストラン、カフェなど街のあちこちでこの話題がなされているのを耳にした。国民の関心の高さを感じた。

大統領選挙で驚いたのは、候補者に対する支持者の熱狂ぶりである。予備選挙期間中、オバマ氏がバージニア州のある高校で行った講演を聞きに行ったことがある。会場となった高校の体育館は観衆で埋め尽くされていた。若い支持者が多いのが印象的であった。オバマ氏の到着までにはまだ時間があるというのに、体育館は観衆が足を踏みならし、ミュージシャンを待つライブ会場のような雰囲気であった。オバマ氏本人が登場した時の会場の盛り上がりはすごかった。観客へサービスもすばらしかった。観客からの質問タイムにある中年の女性が手を挙げた。「今日、私の夫はクリントン氏の講演を聞きに行っています。私は一体どうしたらいいのでしょうか。オバマさん、私があなたに投票すべき理由を教えてください。」と質問した。これに対しオバマ氏は、彼女に丁寧に来場の礼を言い、そして自分の政策を改めて簡潔に伝え、「帰って今の内容を旦那さんにも伝えてもらえるかな?」と言った。

肝心のオバマ氏の演説の内容については、私は半分くらいしか分からなかったのだが、終始熱狂している観衆に「こんな光景が日本の選挙であり得るだろうか?」と驚きっぱなしだった。大統領候補者の討論会がテレビで放映される夜は、本当に街の人通りが少なかったように思うし、次の日はみんなその話題を口にしていて。この2008年の大統領選挙は、これまでのアメリカ大統領選挙の中でもとりわけ国民の関心が高かった選挙だったのかもしれないが、私が選挙に対して抱いていたイメージをいい意味で大きく変えてくれた。

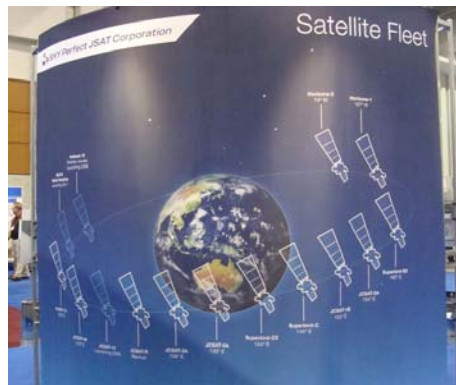
2009年1月20日には、第44代アメリカ合衆国大統領就任式が行われた。この日は全米中からワシントンDCに人が押し寄せた。日本大使館からは「徹夜の場合取りは禁止」という案内もまわってきた。当日は本当に寒かった。観客は思い思いのオバマグッズを身につけていた。オバママフラーやオバマ帽子などは当たり前で、オバマピアスや自分とオバマの写真をプリントしたお手製のシャツを着ている人もいた。一人一人が新たな大統領の誕生を、まるで自分たちを救ってくれる正義のヒーローの登場のように、心から喜んでいるようだった。



▲ 就任式でペンシルベニア通りをパレードするオバマ大統領とミッシェル夫人

## 9. Satellite2009

ワシントンDCでは、毎年2~3月頃に衛星業界では非常に大きな「Satellite」というカンファレンスが開催されている。来場者9000人以上、出展企業300社以上という大規模なもので、当社も2009年に開催された「Satellite2009」で、スカパーJSAT(株)として初めて出展を行い、沢山のの方々にお



越し頂くことができました。

ちなみに、当社は今年のSatellite2010(3月15～18日開催)にも出展予定です。カンファレンスにお越しの方は是非当社ブースにもお立ち寄りください！

## 10. 最後に

私がトレーニーとしてワシントンDCに滞在したのは、わずか一年半という短い期間であったが、そこで出会った様々な人々、文化、環境には大きな影響を与えられたように思う。日本人であることとは何か？、日本の良い面と悪い面とは？、日本という母国を外から見ることができ、自分の人生を多方面から考える視点を僅かながら得られたのではないかと思う。日本で出会う人々はほとんどが日本人であるが、アメリカには多種多様な人種がいるため、「以心伝心」の概念は通用しない。でも、やはり同じ人間同士、意思疎通を行うためには十分なコミュニケーションが必要であることも改めて学んだ。

アメリカで学んだことは多くてとても書ききれない。この経験を与えてくれた会社に、とても感謝している。学んだことの一つ一つを忘れずに、今後の仕事や人生を通じ、少しでも恩返しをしたいと思う。■

